

『子供の科学』目次の通時的分析から見る鉄道模型の周縁

——テキストマイニングの社会学的利用 5 ——

東京大学大学院・日本学術振興会 塩谷昌之

1 目的

本報告は鉄道趣味の研究の一環であり、鉄道模型に注目して趣味を支える背景構造を考察するものである。鉄道模型に関する社会学的研究として、辻(2008)の先行研究が挙げられる。辻は模型と科学について論じる中、敗戦という外在的要因によって戦闘機や軍艦が雑誌から姿を消し、とりわけ特定のコーホートに属する趣味人において、結果として鉄道が主役に位置付けられたと指摘する。本報告では、代表的な少年向け科学雑誌『子供の科学』の目次の通時的分析を行い、この点を実証的に検討するとともに、当該雑誌における鉄道模型の周縁の状況を、模型と実物の違いに留意しつつ確認する。

2 方法

少年向け科学雑誌『子供の科学』について1924年10月号から1960年12月号まで419号分の目次を網羅的に収集し、全てをデータ化したのち、テキストマイニングの手法を用いてデータ分析を行う。特に、単語の出現数に注目した数量的分析によって、データの不在を示すことで、実証的な検討を試みる。

分析の際、まず必要なのが対象資料の特性の把握である。第一次『子供の科学』は1924年に創刊され、1940年9月を最後に『学生の科学』へと改題。そして1941年1月に弟雑誌であった『小学生の科学』が名前を引き継ぐ形で、第二次『子供の科学』に改題したという経緯を持ち、他にも複数の雑誌と合併・独立する関係にあった。これらの特性を考慮し、さらに目次の傾向や内容を確認した上で、データを読解することが肝要である。

3 結果

全体的傾向では、敗戦の時期と重なって、戦闘機や軍艦に関連する単語が明らかに出現しなくなったこと、鉄道に関連する単語が継続的に出現していたことを確認した。しかし一方、飛行機や船に関連する単語もまた同様に、継続的に出現していたことが確認される。鉄道模型に関する記事は、工作記事の連載の影響もあり、1950年代に増加する傾向にあった。

4 結論

当該雑誌において、飛行機や船の軍事的要素が脱色されていく様子を確認した。また、飛行機や船の記事が戦後も継続的に出現していたことは、先行研究を否定するものではないと考える。むしろ、趣味人が姿を消したと実感したものが、飛行機や船といった物体そのものではなく、それに媒介されていた何らかの意識であったと考察することができる。その正体およびその宛先に迫るには、本文記事に立ち返った資料分析や、別の質的調査によるアプローチを必要とする。

文献

辻泉, 2008, 「鉄道の意味論と〈少年文化〉の変遷——日本社会の近代化とその過去・現在・未来」
東京都立大学大学院社会科学研究所提出博士論文。

※ 本報告は科学研究費補助金・基礎研究(C) (課題番号 15K01927) および、特別研究員奨励費 (課題番号 15J10977) の研究成果の一部である。